	名称	説明
あ	ISO14000シリーズ	組織が環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて自主的に取り組んでいくための体制、手続き等を環境管理システムというが、これらの環境管理の手法を国際的に標準化して定めたものをいう。これに準拠して日本工業規格（JIS）にも定められている。
	アイドリング・ストップ	大気汚染防止及び地球温暖化防止などを目的として、自動車の停車中にエンジンを不必要にアイドリングすることを自粛すること。環境庁（現環境省）では、平成8年度の環境月間を契機に全国的な実施行動としての「アイドリング・ストップ運動」を提唱している。
	アオコ	富栄養湖沼等に見られる水面に緑色の粉を敷きつめたように浮遊する水の華で、ミクロキスティス等藍藻類の異常増殖によるもの。大発生すると異常な臭気を発したり、魚介類の大量へい死をもたらす。
	赤潮	プランクトンの異常繁殖により海水が赤褐色・茶褐色に着色する現象であり、酸素消費量増加による酸素欠乏のため、魚介類のへい死等の漁業被害が発生することもある。赤潮の発生は閉鎖性水域で起きやすく、窒素、リン等の栄養塩類の流入による富栄養化の進行が基本的な発生原因とされているが、底質から海水への溶出及び降雨、河川水の多量の流入による塩分の低下等も原因の一つとして考えられている。
	アスベスト	石綿ともよばれる。天然に産する唯一の鉱石繊維で、熱、磨耗および腐食に強いため、建設資材、電気製品等用途は非常に多い。多量に吸い込むと石綿肺、肺がん、胸膜および腹膜の悪性中皮腫の原因になるといわれている。
	アメニティ	通常、「快適さ」「感じのよさ」と訳され、私たちの生活環境を構成する自然や施設、歴史的・文化的伝統などがお互いに、他を活かしあうようにバランスがとれ、その中で生活する私たち人間との間に真の調和が保たれている場合に生ずる好ましい感覚のこと。
	アルキル水銀	有機水銀の一つで、メチル、エチル水銀は水俣病の原因とされており、知覚障害、聴力障害、言語障害、視野狭さく、手足のまひなどの中枢神経障害などを起こして死亡する場合もある。
	暗騒音	ある場所において特定の音を対象として考える場合に、対象の音がないとき、その場所における騒音を、対象の音に対して暗騒音という。
	硫黄酸化物（SOx）	主な物質としては二酸化硫黄（SO_2）と無水硫酸（SO_3）がある。SO_2は動植物に被害を与えるが、特に人体に対しては粉じんとの相乗効果が大きく、影響としては感冒症候群、気管支ぜんそく、咽喉頭炎などがあげられる。
	加重等価平均騒音レベル	航空機騒音のようにピーク値は高いものの、継続時間は短く、ある時間間隔をおいて発生するという騒音の評価法として導入された指標。昼間より夜間のほうが騒音がうるさいという感覚も反映されている。
	エコツーリズム	多種多様な動植物が生息する天然林や国立公園などで行う自然に親しむことに重点をおいた観光をいう。森林を管理する側からは、バッファー・ゾーンに宿泊施設、遊歩道などの施設を設けることにより、厳正な保存地域への立ち入りを防ぎつつ啓発活動を行うとともに、地域の収入増を図ることができる。利用者側からは、通常では親しむことが困難な野生動植物の観察等、その生態系を利用したレクリエーションを行うことができる。
	エコマーク	環境の改善に役立ったり、環境を汚さないように工夫された製品や商品に表示されたマーク。
	SS（浮遊物質量）	水中に浮遊する物質の量をいい、数値（mg/l）が大きいほど水質汚濁の著しいことを示す。
	NGO	Non-Governmental Organizationの略。非政府組織。非政府、非営利の立場から、地球的規模の問題に取り組む市民レベルの海外協力団体をいう。
	ND	Not Detected「検出されない」の略称。
	NPO	Non-Profit Organizationの略。国内で取り組む民間非営利団体をいう。
	MBAS	メチレンブルー活性物質のことで、河川等に含まれている陰イオン界面活性剤等がメチレンブルーと反応して生ずる錯体をクロロホルムで抽出して表示したものである。陰イオン界面活性剤の指標として用いられる。

	名称	説明
	MPN（最確数）	most probable number の略。細菌数の表示単位の1つで、確率論的に算出した細菌数をいう。
	オープンスペース	公園や広場、川とその河川敷など、開放的な空間で、誰もがほぼ自由に出入りできる場所をいう。
	オキシダント（Ox）	大気中の窒素酸化物や炭化水素が強い紫外線により光化学反応を起こし、二次的に生成される酸化性物質の総称であり、食物の葉を白く枯らせたりする影響も見られる。
	オゾン（O_3）	特有の臭気のある無色の気体。強い酸化性があり、吸引すると呼吸困難などを引き起こす。地上付近（対流圏）のオゾンは、オキシダントの主成分であり、成層圏のオゾンは太陽からの有害紫外線を遮断する働きがある。空中放電等によっても発生する。
	オゾン層の破壊	オゾン（O_3）層は成層圏にあり、生物に有害である太陽からの紫外線を吸収する働きを持っている。このオゾンは、地上から放出されたフロンが紫外線によって遊離された塩素（Cl）と反応することにより破壊され、地上に直接紫外線が降り注ぐなどの問題が生じる。
	汚濁負荷量	河川等に排出される汚濁物質の量で、BODをその指標として使い、一般的に次式で表す。 汚濁負荷量（g/日）＝排水量（m3/日）× BOD（mg/l）
	温室効果	地球の表面は、太陽光線を受けて暖まり、その熱は赤外線の形で空気中に放出され、これが大気を通過して宇宙空間に出ていくことにより、地球に出入りする熱は均衡がとれ、地表の温度は一定に保たれている。しかし、二酸化炭素、水蒸気、メタン、亜酸化窒素などは、特定の赤外線を吸収して熱を宇宙に出さないため大気の温度が上昇する。これらのガスが温室のガラスと似た作用をすることからこれらを温室効果という。
	温室効果ガス	太陽光によってあたためられた地表面は、赤外線により熱を地球の外に放出するが、大気中にある二酸化炭素（CO_2）やメタンガス等には赤外線を吸収する性質があるため、地表面から放出された熱（輻射熱）を大気中にとどめて気温を上昇させる働きがある。このような性質を持つガスのことを総称して温室効果ガスという。
か	合併処理浄化槽	し尿と生活雑排水（台所、風呂、洗濯等に使用した水）を併せて処理することができる浄化槽のこと。河川等公共用水域の水質汚濁の原因として生活雑排水の寄与が大きくなり、生活雑排水を未処理で放流する単独処理浄化槽に替わって、現在は、合併処理浄化槽の設置が義務付けられている。
	カドミウム（Cd）	イタイイタイ病の原因となった物質で、青味を帯びた銀色の金属である。大量のカドミウムが長期間にわたって体内に入ると慢性中毒となり、消化器、腎臓、骨などに障害を生じる。
	環境影響評価（環境アセスメント）	大規模開発や都市開発などの開発行為を行う場合等で、開発に伴う環境への影響の程度と範囲及びその防止策、代替策の比較検討を含む、総合的な事前評価・調査のこと。
	環境基準	人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準のこと。現在、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・航空機騒音及び新幹線鉄道騒音に関する環境基準が定められている。
	環境基本計画	国の環境基本計画は、環境基本法第15条に基づく「環境の保全に関する基本的な計画」で、中央環境審議会の意見を聴いて閣議決定されたものである。平成6年12月閣議決定された最初の環境基本計画は、21世紀半ばを展望して、環境基本法の基本理念を受けた環境政策の基本的考え方と、循環、共生、参加、国際的取組という4つの長期的な目標を示すとともに、21世紀初頭までの施策の方向を明らかにし、施策の総合的計画的な展開を図るとしている。 一方、地方自治体における環境基本計画の策定も一般化してきており、本市でも平成12年3月に策定。
	環境教育	人間と環境との関わりに関する教育のこと。従来の公害教育、自然保護教育、自然教育等を含む広い概念。
	環境週間	毎年、6月5日からの1週間のこと。ストックホルムで開催された国連人間環境会議で決議された「世界環境デー」（6月5日）を記念して日本で実施されている。

名　称	説　明
環境パートナーシップ	市民団体、行政、企業など、構成原理や目的の異なる組織が環境問題の解決という共通の目標を達成するために行う共同の形態をいう。
環境への負荷	人の活動により環境に与える影響で、環境を保全する上で支障となるおそれのあるもの。
環境ホルモン（外因性内分泌攪乱物質）	動物の生体内に取り込まれた場合に、本来、その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性の物質をいう。
環境マネジメントシステム	組織運営において、環境への配慮をするとともに、継続的に改善していく仕組みを組み込む手段のこと。
官能試験法	臭気等を数量化する評価手法の一つで、人間の嗅覚により測定する方法。
間伐材	森林の木々は、放っておけば互いに日光や栄養を取り合い、成長を妨げあってしまう。材木として十分に成長させるには、人為的に木々が生えてくる密度を下げてやらねばならない。このために間引かれる木のことをいう。
グリーン購入	環境保全型の製品、原材料、サービス等を優先して購入することを指したもの。1996年に民間団体や企業、環境庁（現環境省）、地方公共団体等によってグリーン購入ネットワークが設立され、消費者向けにガイドラインを出している。
K値規制	煙突の有効高さに応じて硫黄酸化物の許容排出量を定める規制方式で、具体的には地上濃度を一定以下とするように基準式の定数Kを地域の汚染度によって決定し、実際の規制の進み具合と環境の汚染濃度とを見比べながら、目標年次までに環境基準を達成しようとするものである。
健康項目	水質汚濁に係る環境基準のうち、人の健康の保護に関する環境基準の定められている項目で水質汚濁物質の中でも特に有害性の強いもので、カドミウム、シアン等26項目をいう。
公害防止計画	環境基本法第17条に基づき、公害が現に著しく、公害防止に関する施策を総合的に講じなければ公害の防止を図ることが著しく困難である地域において策定される地域計画のこと。環境大臣の策定指示により、環境大臣が示す計画策定の基本方針に基づいて、都道府県知事が策定し、環境大臣により同意される。
光化学スモッグ	オキシダントによるスモッグのことで、春から夏にかけて日差しが強く気温の高い日、また、風速が弱い日中に出現しやすい。
降下ばいじん	大気中に浮遊しているすすや粉じんのうち比較的粒子の大きいもので、雨水とともに降下したり、あるいは単独の形で降下するばいじんをいう。降下ばいじんは不溶解性物質（水に溶解しないもの）と溶解性物質に分かれている。
公共用水域	水質汚濁防止法では、河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝渠、かんがい用水路、その他の公共の用に供される水路。ただし、公共下水道及び流域下水道で終末処理場を設置しているものを除く。
国連環境計画（UNEP）	1972年にストックホルムで開催された国連人間環境会議の勧告を受け、第27回国連総会の決定により設立された。 環境分野における国際協力の推進、国連諸機関の環境関連政策の作成、世界の環境の監視及び環境関連の科学的知見の入手などを目的とする。
コジェネレーション	発電と同時に発生した排熱を給湯・冷暖房にも利用することによって熱効率の向上を図るシステム。全体の熱効率は従来の発電システムでは40％以下なのに対して、70～80％にまで高めることができる。